

2017年度 第1四半期決算説明会
主な質疑応答

- Q: ドキュメント ソリューションで減収、減益となっているが、不適切会計問題の影響はあるか？
- A: オセアニア地域で売上影響がでていますが、その他の地域では特に影響はない。ニュージーランド、オーストラリアでは、商談に関する与信管理を厳しくしており、今回の事案対応などで積極的に新規の案件を獲得できていない。ガバナンス強化や営業担当の教育を通じて営業体制の再構築を行い、下期に向けて業績を回復できるよう取り組んでいく。
- 収益については、為替影響や一過性の費用計上により減益となったが、その影響を除くとほぼ前年並みの収益を確保している。
- Q: イメージング ソリューションが好調で、収益性が大きく向上しているようだが、その要因は？
- A: デジタルカメラ事業の売上が対前年40%増と好調。収益性の高いXシリーズやGFX50S、交換レンズが好調で、全販売台数の60-70%、売上の90%を占めている。伸長の続くチェキとともに収益性向上のドライバーとなった。
- Q: チェキの販売台数はどれくらいか？
- A: Q1のチェキの販売台数は150万台で、対前年11%伸びている。チェキで初めてデジタル対応し、スクエアフォーマットに出力できるINSTAX SQUARE SQ10がQ1に販売を開始したが、当初の計画を大きく上回り実績をあげている。

以上